

2.1.4 教育内容・方法

2.1.4.1 カリキュラムの編成

＜2003年度に設定した目標＞

1. 新カリキュラム導入に伴うカリキュラム構成上の問題点を抽出し、その改善を図る。
2. 学生の履修実態調査等を通してカリキュラム理念の実現度を検証し、設置完成年度以降の改善に資する。
3. 新たな広領域の履修コース設定の可能性を検討する。

【評価項目 6-1-1】 教育課程

- (必須要素) カリキュラムの編成方針と教育理念・目的との関係
- (必須要素) カリキュラムの体系性と教育理念・目的との関係
- (必須要素) カリキュラムにおける基礎教育、倫理性を培う教育の位置づけ
- (必須要素) 基礎教育と教養教育の実施・運営のための責任体制の確立とその実践状況
- (選択要素) グローバル化時代に対応させた教育、倫理性を培う教育、コミュニケーション能力等のスキルを涵養するための教育を実践している場合における、そうした教育の教養教育上の位置づけ
- (選択要素) 起業家的能力を涵養するための教育を実践している場合における、そうした教育の教育課程上の位置づけ
- (選択要素) 学生の心身の健康の保持・増進のための教育的配慮の状況

【評価項目 6-1-2】 履修科目の区分

- (必須要素) 専門教育的授業科目とその学部・学科等の理念・目的との関係
- (必須要素) 一般教養的授業科目の編成における「幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養」するための配慮の適切性
- (必須要素) 外国語科目の編成における学部・学科等の理念・目的の実現への配慮
- (必須要素) カリキュラム編成における、必修・選択の量的配分の適切性、妥当性

【評価項目 6-1-3】 授業形態と単位の関係

- (必須要素) 各授業科目の特徴・内容や履修形態との関係における、その各々の授業科目の単位計算方法の妥当性
- (必須要素) 教育課程の開設授業科目、卒業所要総単位に占める専門教育的授業科目・一般教養的授業科目・外国語科目等の量的配分とその適切性、妥当性

(現状の説明)

文学部では2003年度から従来の9学科を3学科に再編成するという大規模な学部改革を行い、これに伴ってカリキュラムの大幅な改編を実施した。この改編では、幅広い人文学的素養と深い専門性を併せ持ち、それらを基盤として自ら考え、行動できる能力を養成することを目指してカリキュラムを構成している。具体的には、従来、専修領域によって科目履修のパターンがほとんど画一化していた点を改め、特に低学年度では領域ごとの必修科目を削減して科目選択の横への広がりと自由度を高めている。また、全体的にも選択科目の量的配分を多くすることによって、履修パターンの多様化を促進している。開講されている授業科目と単位数は、文学部を構成する3つの学科（文化歴史学科・総合心理科学科・文学言語学科）の特性に応じて多少異なるが、大きくは共通科目（42単位）、学科科目（50単位〔文学言語学科は60単位〕）、自由履修科目（32単位〔文学言語学科は22単位〕）の3区分からなっている。これらの科目は、低学年度では個別の専門への特化をできる限り回避して、複数分野の有機的関連を重視した基礎的教育を実現し、高学年度では演習を

中心とした専門教育を提供するという教育方法の考え方に基づいて配置・構成されている。具体的な科目区分の内容は以下のとおりである。（＜カリキュラム全体表＞参照）

＜共通科目＞

本学学生として、また文学部生としての基本を形づくるキリスト教科目（専任教員の担当率：100% 以下同じ）・言語教育科目（9%）・情報処理科目（13%）、情報収集や文章表現、発表技術などの研究の基本的リテラシーの修得を目的とした人文演習（100%）、各学問領域への導入を目的とした入門科目（100%）、広く学際的な関心のもとに提供される総合科目（82%）、および文学部での学びの集大成としての卒業論文（100%）がこのカテゴリーに含まれる。

＜学科科目＞

各領域の専門教育の中核をなす演習科目（100%）、専修諸分野の提供する概論などの専門講義科目（58%）、高度な専門的内容や最先端の知見を提供する特殊講義科目（42%）、資料・史料の読解やテキストの解釈などを目的とする研究科目（58%）がこのカテゴリーに含まれる。さらに一部の学科・専修においては、実証的研究手法の修得を目的とする実験実習科目（50%）、より高度な外国語能力の習得を目的とする専門言語科目（13%）が含まれている。

＜自由履修科目＞

上記の2つの科目区分で卒業必要単位を越えて修得した科目や他学部・他学科で修得した科目、全学で開講される全学科目などが含まれる。学生はそれぞれの関心や研究上の必要に応じて、自学部・自学科以外で開講される科目であっても、その大部分を自由に履修できるようになっており、これらがすべてこのカテゴリーに含まれる。

これらの科目以外に、3学科すべてに共通する融合型科目として言語科学系の科目群を置いている。そして特にこの領域を深く学ぼうとする学生のために、3つの学科にまたがる広領域の履修コース（言語科学コース）を設け、2005年度からの言語科学演習の開講をもって、実質的にスタートした。開講された「言語科学演習Ⅰ」は3クラスであり、その履修者は合計22名である。

また、専修を単位とする副専攻制度を設けて所属学科を問わない自由な科目選択を認め、学生が専門領域を自ら相対化して広い視野を獲得するための積極的な取り組みを行なうよう促している。

（点検・評価の結果）

現在は、上記の大幅なカリキュラム改編の途上であり、新旧両カリキュラムが併存している状況にある。そのため、移行に伴う様々な問題点や、履修上のトラブルが発生しているが、それらに対しては柔軟かつ適切な対応を行っており、重大な問題は発生していない。新カリキュラムは2006年度に完成の予定であり、この移行に伴う問題は順次解消できる見通しである。

新カリキュラムの理念は、「低学年度では幅広く、多様な履修を促し、高学年度になってから専門に特化した高度な教育を行う」ということであるが、現在のカリキュラム構成は、おおむねこの理念を実現できている。しかしながら、実際には開講科目数が多いこと

によって時間割編成上の制約が大きく、またそれに伴う科目配置の偏りから、必ずしも学生の希望通りの「幅広い」履修が保証できていないところもある。また、学科の枠が広がったこと、および履修の自由度が高くなったことから、特定の授業に履修者が集中し、十分な教育効果をあげることが難しいクラスが出現する、という問題も生じている。

現在のカリキュラム構成は、早くから特定の領域に目標を定めて勉学に取り組もうとする学生に対しては、十分な充足感を与えられるものではなく、逆に、目標が不明確な学生にとっては、高すぎる自由度が、むしろ履修計画の決定を困難にしているという問題もある。さらに、履修科目選択のバリエーションが広いことから、専門教育に移行する第3学年度の時点で、個々の学生の各専門領域における到達度のばらつきが大きいことも問題であろう。

これらの問題に加えて、入学時には特定の専修に所属せず、第2学年度から専修に所属する文化歴史学科、および第3学年度から所属する総合心理科学科においては、所属の方法や専修間の学生人数調整をいかに適正に行なうかという問題も、カリキュラム構成に付随して生じている。

しかしながら、これらの問題は時間割編成の不備を除けば、今次の学部改革に伴う問題として想定内のものであり、カリキュラム改編の理念を守りつつ、個々の問題については、よりきめ細かい履修指導を行うなどの方策によって、解決をはかることが可能だと思われる。

カリキュラム委員会（正副教務主任および各専修の委員など16名で構成）においては、各専修におけるカリキュラム編成や履修上の問題点について継続的な検討を行っており、そこでは、理念の実現度についても視野に入れたうえで、新カリキュラム完成年度以降のカリキュラム改善の方向性や具体的内容について、十分な検討が行われている。また、現状説明において問題点として指摘した「履修者の集中するクラス」についても、科目の増設やクラス数の変更が、より柔軟に実施しうる完成年度（2006年度）以降の対応に向けて、具体的な問題の洗い出しと整理が行われている。

言語科学コースについては、全く新たな形態のカリキュラムとして導入されたものであり、現在、その運営については試行錯誤的に行っている部分もある。この履修コースの運営とその問題点については、「広領域運営委員会」およびその下部に設置された「言語科学コース運営部会」において、継続的な検討が行われ、その充実がはかられている。

<カリキュラム全体表>

文化歴史学科・総合心理科学科

			必要単位数		
共通科目	キリスト教科目		4	42	124
	言語教育科目		16		
	情報処理科目		2		
	人文演習		4		
	総合科目・入門科目		8		
	卒業論文		8		
学科科目	演習科目	演習科目	8	50	
	学科科目	専門講義科目	42		
		特殊講義科目			
		研究科目			
実験実習科目					
自由履修科目	1. 学科科目のうち42単位を越えて修得した科目		32	32	
	2. 共通科目のうちそれぞれに必要な単位を越えて修得した科目				
	3. 他学科で修得した学科科目				
	4. 全学科目				
	5. 他学部で修得した科目				
	6. 広域科目のうち卒業単位数に算入できる科目				

文学言語学科

			必要単位数		
共通科目	キリスト教科目		4	42	124
	言語教育科目		16		
	情報処理科目		2		
	人文演習		4		
	総合科目・入門科目		8		
	卒業論文		8		
学科科目	演習科目	演習科目	8	60	
	学科科目	専門講義科目	52		
		特殊講義科目			
		研究科目			
		実験実習科目			
専門言語科目					
自由履修科目	1. 学科科目のうち52単位を越えて修得した科目		22	22	
	2. 共通科目のうちそれぞれに必要な単位を越えて修得した科目				
	3. 他学科で修得した学科科目				
	4. 全学科目				
	5. 他学部で修得した科目				
	6. 広域科目のうち卒業単位数に算入できる科目				

3 学年度より広領域（言語科学コース）の演習に所属した学生は、もとの所属学科の修得単位に関わりなく次の言語科学コースの必要単位を修得しなければならない。

広領域（言語科学コース）

			必要単位数	
共通科目	キリスト教科目		4	42
	言語教育科目		16	
	情報処理科目		2	
	人文演習		4	
	総合科目・入門科目		8	
	卒業論文		8	
学科科目	演習科目	演習科目	8	50
	学科科目	専門講義科目 特殊講義科目 研究科目 実験実習科目	42	
自由履修科目	1. 学科科目のうち42単位を越えて修得した科目 2. 共通科目のうちそれぞれに必要な単位を越えて修得した科目 3. 他学科で修得した学科科目 4. 全学科目 5. 他学部で修得した科目 6. 広域科目のうち卒業単位に算入できる科目		32	32
124				

（改善の具体的方策）

カリキュラム委員会を中心に、より良いカリキュラム構成に向けて検討を行うとともに、個別の問題についてのチェックを継続的に行い、問題点については具体的な対応策を決定し実行していく。

時間割編成については、各専修の時間割担当者による会議において、編成上の留意点に対する意識をさらに徹底して喚起し、科目配置上の問題の減少に努める。

現在まで実施できていない学生の履修実態調査を、限定的な規模のものであっても実施し、さらに具体的な検討資料を得る。

広領域の履修コースについては、「言語科学コース」をモデルケースとして、その実情と問題点を十分に検討し、その上に立って、新たな履修コースの設置可能性を引き続き検討する。

【評価項目 6-1-4】 単位互換／単位認定等

- （必須要素）国内外の大学等との単位互換方法の適切性
- （必須要素）入学前の既修得単位の単位認定方法の適切性
- （必須要素）卒業所要総単位中、自大学・学部・学科等による認定単位数の割合
- （選択要素）海外の大学との交流協定の締結状況とそのカリキュラム上の位置づけ

（現状の説明）

全学的なプログラムに参加し、単位互換、単位認定を行っている。詳細は、「Ⅱ 全学的な教育・研究に関する事項」の「2.4 教育内容・方法 2.4.1カリキュラムの編成 【評価項目 6-1-4】 単位互換／単位認定等」の項を参照。

【評価項目 6-1-5】 開設授業科目における専・兼比率等

(必須要素) 全授業科目中、専任教員が担当する授業科目とその割合
(必須要素) 兼任教員等のカリキュラムへの関与の状況

(現状の説明)

科目群ごとの専任教員の担当率は、前項（【評価項目 6-1-1、6-1-2、6-1-3】）の現状説明の文中にカッコで示した通りである。科目の種類によって専任の担当率はかなり異なるが、当然ながら中核となる科目群では専任比率が高くなっている。

(点検・評価の結果)

文学部の専門領域は極めて広範囲であり、その領域をカバーする多様な科目を提供するためには、相当部分を非常勤講師などに依存せざるを得ない。さらに、各領域での先端的な知見を提供する「特殊講義科目」などでは、むしろ積極的に外部の講師を招聘することも必要となる。現状では、単純に「外部依存」するのではなく、専・兼比率の適切性には常に注意が払われており、また主に専修を単位として、科目の内容や運営のあり方について非常勤講師と緊密に連携をとるなどの努力も行われているが、今後とも継続的な点検が必要である。

(改善の具体的方策)

カリキュラム委員会を中心に、専・兼比率の適切性について、各年度の時間割編成ごとに確認を行い、あわせて、そのあり方について長期的な視点に立った検討を行っていく。

【評価項目 6-1-8】 生涯学習への対応

(必須要素) 生涯学習への対応とそのための措置の適切性、妥当性

(現状の説明)

一般にも公開される学部主催の講演会を、年に数回開催している。また、科目等履修生・聴講生の受け入れや、関西学院大学リベラルアーツプログラム（KGLP）など、全学的なプログラムにも参加している。詳細は、「Ⅱ 全学的な教育・研究に関する事項」の「2.4 教育内容・方法 2.4.1カリキュラムの編成 【評価項目 6-1-8】 生涯学習への対応」の項を参照。

2.1.4.2 教育・研究指導のあり方

<2003年度に設定した目標>

1. 大学教育への円滑な移行を促進する導入教育の充実。
2. 新カリキュラム導入に伴う履修上の問題点を抽出し、その改善を図る。
3. 各学科・専修などを単位として、特に必要な履修指導の要点を明確化する。
4. より良い教育・研究指導を行うために、学生による授業評価を活用する。